高知工科大学ニュースレター　NEWSLETTER

FLYING FISH

46

2011 SPRING

［フライング フィッシュ］

INTERVIEW
篠森敬三教授

バランスよき
生き方に戦略あり！
追求することのオモシロさを伝えたい

NEWS

国際交流！肌で感じる異文化
ハルビン研修
修士課程学生が中国・黒竜江省へ

想いを引き継ぐ光のアート
冬のイルミネーション

大学祭FlyingFishFestival2010
PHOTO GALLERY

学生たちの日々

全国生涯学習フォーラムに参加／夢を追いかける熱い「志」・WOODOMINO・地域再生フォーラム／「山の日」アカペラコンサート／リレー・フォー・ライフin高知／いざ！馳せ参じたり踊り子隊／「豊年踊り」をサポート／発表奨励賞を受賞！！

表紙のコトバ＝好奇心のたまもの

学生の頃から、興味があることはとことん追求して来たという篠森先生。そうして極めてきたものが、仕事になっていくオモシロさ。好奇心が、未知の領域へつながるカギになる！？

Flying Fish INTERVIEW

バランスよき生き方に 戦略あり！
追求することのオモシロさを 伝えたい

一見問題なさそうな警告の案内板も、バリアントールをかけて見ると、非常に判別しづらくなってしまう。「色弱者は特に赤と緑の区別が難しい」という。

JIS 標準色票（写真下）を使用し、照明光の色や照度の違いで、色の見え方がどう変わるのかを実験する。

生き方の戦略を立てよ

自分の力ではどうにもならないことが、長い人生誰しも時にはあるだろう。でも日々の暮らしの中で、常にあらゆる場面を想定しながら、「将来どうなりたいのか、そのために今すべきことは何か」という生き方の“戦略”を立てておけば、そんな事態に陥ることを回避できるのかもしれない――篠森先生を見ていると、自然とそんな風に思えてくる。

篠森先生は開学時から本学を支えてきた一人だ。33歳という若さで赴任し、助教授から教授へ、そして今や図書館長や教育センター長も務めるなど、活動の範囲はとにかく広い。学生が選ぶ“Teacher of the Year”に通算3度も輝き、教育面で学生からの大きな支持を集める一方、研究面でも常に時代の先を見据えた成果を発表し、国内外で高い評価を得ている。時間がいくらあっても足りないのではないかと思ってしまうほどの活躍ぶりだが、そんな心配もどこ吹く風、常に目の前のものを分析しているかのような、冷静沈着な物言いと表情には、どこか余裕すら感じられるのだ。

楽しむことから成果はうまれる

篠森先生の専門は「視覚心理物理学」。人間の視覚系がどのように働いているのかを、心理物理学という手法を使って研究している。実験協力者に物理的に制御したさまざまな視覚刺激を見せ、色や明るさ、見えたかどうか等を答えてもらい、刺激の物理条件（光の分光分布や強さ等）と人間の応答を結びつけて、視覚特性（例えば色の違いに対する感度）を求めるというもの。具体的には、人間の色覚情報処理や視覚系応答速度を中心に、年齢による変化や色弱の方の特性等を調べている。

大学時代は理学部の物理学科で理論物理を専攻していたが、次第に興味が薄れていったという。「当時は素粒子など色々とやっていましたが、それより何より一番実体が見えないのが“人間”だった。もうこれをやるしかないと」。一念発起して、修士からは心理物理学の世界に飛び込んだ。「幸いなことに脳科学は、ここ最近で飛躍的に発展した。色んなことがわかるようになってきて、今非常に面白い。楽しくやっています」という。

そんな先生の代表的な研究成果と言えば、豊橋技術科学大学と共同開発し、2007年にグッドデザイン賞を受賞した「バリアントール」だ。色弱者の色の見分けにくさを一般色覚者が体験できるようにした、世界初の色弱模擬フィルタで、かけて見るだけで見分けにくい色使いに気付くことができる優れもの。日本では男性の20人に1人、女性では500人に1人が色弱者と言われ、カラーユニバーサルデザインの必要性が近年さらに増してきている。発売当初から反響は大きく、行政をはじめ、印刷会社や出版社など多くの企業で導入され、経済産業省の産学連携プロジェクトによる数少ない成功事例の一つに挙げられている。

もっと地域に開かれた図書館に

篠森先生のもう一つの顔である“附属情報図書館長”は、今年度で就任二年目になる。生粋の研究者が図書館長！？一聞すると結びつかないのだが、そもそもどういう経緯で就任することになったのだろう。「子どもの頃から本が大好きなので、自ら手を挙げました。開学時から、希望して選書委員もやってたんですが、これが楽しくて（笑）」。なんでも先生は無類の本好きで、年間100冊以上は購入するという。さらに1日に2～3冊は平気で読めるという速読術も体得しているというから、もはや趣味の領域ではない。そんな“篠森館長”はこれまでさまざまな取り組みを行ってきた。中でも大きいのは、昨年、高知県立図書館と図書の相互貸借や資料交換等で協力する協定を結んだこと。「図書館の本の拡張が必要だと思っていました。工学系の先生が選書をすると、学術書ばかりになってしまう。学生からすると、読みたい本は他にもいっぱいある」。このことで、不足気味だった小説などの一般書が借りやすくなり、工学系やマネジメント系の専門書が地域の図書館で読んでもらえるようになった。さらには、地元である香美市立図書館にも工科大図書館の本を置いてもらえるよう現在調整中だという。「せっかくの財産を地域の人たちにももっと利用してもらいたい」という強い思いからだ。「学生の利便性というのも大きい。学生は駅近辺に住んでいることが多いので、大学より地域の図書館の方が実は近くて便利」。より多くの本をより多くの人がより近所で読めるように――本をこよなく愛する篠森館長の思いは徐々に実を結びつつある。

好きなことを極める面白さ

シラバスを見ると、篠森先生の講義の中で一つだけ異彩を放っているものがある。それが「文化としての戦略と戦術」だ。歴史的な戦争や合戦の中で考え出された戦略・作戦・戦術について学び、それを現在の問題解決や目標達成のための手法として応用しようという内容だ。

「歴史は高校生の頃からずっと好きでした。戦いや合戦などで、どうしてこちらが勝って、あちらが負けたのか、気になるのはそんなことばかり。大学院時代は先生に“人生間違ったんじゃないの？”と言われるほど、入れ込んでました（笑）。教えていても楽しい」。ジャンルなんて関係ない。自分が好きで興味があることをとことんまで突き詰めて最後には仕事にしてしまう。それこそ篠森先生の凄みだ。まるでなるべくしてそうなったかのように、実に自然体で軽やかなのだ。

博士課程までは東京に暮らし、その後はアメリカで大学の研究員や客員助教授を務め、本学の開学と共に高知に移住した。「東京は地元だけど、人が多すぎて毎日が苦行ですよね。高知には来てよかった。というのも、大学周辺とかアメリカにそっくりで（笑）。アメリカは土地も広いし、基本的に田舎なんですよ」。まさに来るべくして来たということか。さらに、「こんな面白い大学、他にないですよ。アメリカでは役割分担が非常にはっきりしていて、研究者は絶対会議には出ない。そういう垣根がなく、どんな立場でもいろんなことに口が出せるのはいいですね」。

好きなことを極めていく面白さ。楽しいことを突き詰めたら、そこから何かが始まる。一見すると何も計算していないようだが、それすら先生の作戦なのではないかと勘ぐってしまう。篠森先生の見事な戦略に満ちた生き方は、未来を模索する学生たちへの暗黙のメッセージのような気がしてならない。

趣味と仕事の境目なし！
無類の本好き、歴史好き

本好きの篠森先生が、こよなく愛するのが“歴史”。特に好きなのが「中国古典」だそう。戦いに勝つための知恵が記された「孫子」や経営学に通ずると言われる「三国志」など、中国4000年の叡智に学ぶ組織学や指導者論は、先生自身にも深く影響を与えたという。先生の生き方の原点は、偉大な先人たちの教えにあり。

篠森敬三

手に持っているのは中国で購入したという、兵法における“戦術”をまとめた「兵法三十六計」のレプリカ。「何がすごいって、当時の形状のままってこと！」と篠森先生。

篠森敬三 教授 ／ 情報システム工学科 情報学群

好きな事をとことん突き詰めれば、そこから道は拓けるのだ！

FF TOPICS
エフエフトピックス

TOPIC 1

国際交流！肌で感じて学ぶ異文化
中国・黒竜江省 ハルビン研修

修士課程学生10名が9月5日（日）～10日（金）にかけて、中国黒竜江省ハルビンへの研修に参加しました。海外の大学での専門領域や学生生活についての意見交換や交流を通じて、国際感覚や見識の醸成を図ることを目的としたもので、今回は、学業・人物ともに優秀な修士課程の学生が推薦されました。さて、この研修の気になる中身とは、一体どのようなものだったのでしょうか ―――

ハルビン工業大学ではこの研修のメインイベントともいえる同大の学生との研究発表が行われました。プレゼン後に質疑応答を繰り返すオーソドックスなものではなく、各人の発表後に、分野の近い研究を行う学生とペアになってディスカッションをするという少し変わった趣向で進行されたことで、学生たちは積極的に交流を図ることができたようです。

宿泊先としてもお世話になった黒龍江大学では、同大の学生による手作りの歓迎パーティを催していただきました。学生有志により入念な準備がされたことがわかる内容で、その歓迎の心に学生たちは感激しながら、楽しく貴重な時間を過ごせたようです。

両大学を見学する機会もあり、キャンパスがひとつの街となっているスケールの大きさ、勉強熱心な学生が多いために空席の見当たらない図書館などに感心しきり。なかでも学生たちを驚かせたのは「軍事教練」。中国の大学では入学直後（今回の訪問は新学期が始まってすぐ）に、新入生が2週間から1ヶ月間、軍服に身を包んでの軍事教練が行われます。見学日は黒竜江大学でその集大成となる最終試験を見ることができ、その迫力に圧倒されるとともに、改めて文化の違いを感じていました。また、中国文化を学ぶ講義や、中国餃子の料理教室、ハルビン市内観光といったプログラムからも異文化を肌で感じることができたようです。

研修中は現地の方とのコミュニケーションはすべて英語。参加学生のほとんどが英語の重要性を痛感したそうですが、皆、知り合った現地の学生たちとは帰国後も連絡を取り合っているとのこと。それぞれに今後の大きな財産となる「出会い」もしっかりと持ち帰ることができたようです。

12月には参加学生による報告会も開催されました。これから海外研修・留学を考えている後輩たちに、自分たちの経験に基づいたアドバイスをしていたようです。

TOPIC 2

KUT＋illmination 2010
冬のキャンパスを彩る光のアート

12月1日から1月5日にかけて、キャンパスがイルミネーションで彩られました。学生が主体となって行う本イベントは、今回で8回目。地元土佐山田町の冬の風物詩としてすっかり定着してきました。

今回のテーマは“Starting Point（原点）”。1年生を主体とした新体制で、本イベントがスタートした頃の先輩達の想いを胸に、光のアートを描きました。12月23日のクリスマスイベントを中心に、今回も多くの方々にご来場いただきました。

TOPIC 3

KUT 2010
PHOTO GALLERY

KUT大学祭 Flying Fish Festival 2010
PHOTO GALLERY
2010.10/16sat-17sun

大学祭「Flying Fish Festival 2010 ～覇気～」が2010年10月16日（土）～17日（日）の2日間にわたって開催されました。

開学以来14回目を迎える今回のテーマは「覇気」。一人ひとりが積極的に取り組み、団結し合い、かつ向上心を持ちながら、大学祭に関わるすべての方々の記憶に残るような、活気あるものにしていきたい！という想いが込められました。地域の皆様をはじめ多くの方々に楽しんでいただいた模様を誌上で再現しました。

学生たちの日々

全国生涯学習フォーラム（まなびぴあ高知2010）に参加

2010年11月20日（土）～22日（月）に開催された、全国生涯学習フォーラム（まなびぴあ高知2010）。本学の学生たちも、積極的に参加しました。

1 高校生に届けたい 夢を追いかける、熱い「志」！

11月21日（土）、本学講堂にて開催された「人材育成・キャリア教育フォーラム」では、「今こそ、青少年の底に眠る龍馬ＤＮＡを呼びさませ！」という副題のとおり、国内外で活躍するフロントランナー（若者）と、本県出身のトップランナー（大人）が一堂に会して熱いクロストークが繰り広げられました。

本学理事も務められた渡邊五郎氏（森ビル株式会社 特別顧問）による基調講演を皮切りに、本学が位置する香美市出身の福留功男キャスターをコーディネーターにシンポジウムが進行。フロントランナーの一員として鳥谷恵生さん（フロンティア工学コース3年）が登壇し、「命の井戸掘り」修行をしたケニアでの体験や、将来の夢を持つに至った経験など、高校生を中心に満席となった来場者へ熱いメッセージを送っていました。

左から、福留功男氏、堀内佳美氏、山中教夫氏、フロンティア工学コース3年の鳥谷恵生くん。

2 たくさんの想いをつなぐ 全長200m「WOODOMINO」

本学、高知大学、高知女子大学の学生らが11月21日（日）、間伐材による1万個のドミノ倒しに挑戦しました。約10ヶ月間にわたる準備期間に多くの方の支援を受けながら、間伐からカンナがけなどすべてを彼らの手で行い本番を迎えました。学生スタッフは総勢約100名、うち本学からは約50名が参加しました。

「自分の書いたドミノを見つけて喜んでいる子どもたちや、色々な方が書いてくださったメッセージを読むと、このイベントを成功させなければならないという気持ちがより強くなりました」と学生たちがドミノを並べる様子は真剣そのもの。中央公園ステージでは本学よさこい踊り子隊がよさこい踊りを披露し会場を盛り上げました。

ドミノとドミノの橋渡しとして活躍したのは、本学ロボット倶楽部が3ヶ月かけて完成させたロボット。より分かりやすく楽しめるよう工夫されたロボットに「何度も練習したのでうまくいくはず！」と成功を祈願しました。

たくさんの人の夢や希望が込められた、高知市の帯屋町アーケードと中央公園を結ぶ全長２００メートルのドミノは、橋渡しロボットもスムーズに通過し見事成功！皆の想いが繋がった瞬間、学生らは手を取り合って喜び、人と人との繋がりの大切さを実感した様子でした。

3 地域の為にできること 教育＝地域再生のカギ

11月21日（日）、22日（月）の2日間、安芸郡田野町の「田野町総合文化施設ふれあいセンター」で開催された「地域再生フォーラム」には、両日ともほぼ満席の約300人が参加され、地方における地域活性化や産業振興の成立要件、産官学の役割を果たすための必要な教育内容、高等教育機関の在り方についての活発な議論がなされました。

21日の研究事例発表では、本学マネジメント学部3年の小林亮太さん、甲籐久典さん、副田崇さんの3名が、本学、札幌学院大学、法政大学、沖縄大学の4大学合同で、梼原町で実施したインターンシップ（和紙づくりや草刈りなどを体験し、地域の現状認識と活性化に関する検討、自治体への地域活性化策の提案等の実施：文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プロジェクト」）の報告がなされ、優秀賞を受賞しました。

22日に開催された「地域再生における高等教育機関の果たす役割」と題するシンポジウムでは、本学マネジメント学科長那須清吾教授がコーディネーターを務め、県内外の地域再生に貢献するスペシャリストである登壇者と活発な議論を展開。高等教育機関はもちろん、子どものころからの教育の重要性など、地域再生に向けた様々な提言を取りまとめました。

これが僕たちの森林との親しみ方 アカペラコンサート

本学近くの香美市土佐山田町の県立森林研修センター情報交流館で、「こうち山の日・交流館祭り」が昨年11月28日（日）に開かれました。高知県は全国一の森林率を誇る森林県。「こうち山の日」は、豊かな森林の恵みに感謝し、森林や山を守ることの理解と関心を深め、県民一人ひとりが森林を守る活動によって山を守り育て、次代へと引き継ぐことを目的としたイベントです。

イベントでは、間伐材を使った木工教室や手すき和紙づくり、竹馬など、昔あそびのアトラクションが行われました。また本学からは、アカペラサークル、電気自動車部、そして県内各メディアを賑わせた間伐材によるドミノ「WOODOMINO」の学生らが参加し、祭を盛り上げました。ステージ・イベントではアカペラサークルが、森を舞台にミニコンサートを開きました。森に響くハーモニーは木霊となって、参加者をすっかり魅了したようです。

歩を合わせ、「がんに負けない」決意 リレー・フォー・ライフin高知

リレー・フォー・ライフ（Relay for Life ）は、チームを組んでがんと闘う決意表明のイベント。がんと向き合っている人たちの連携を目指し、現在では世界的な盛り上がりを見せています。

昨年は10月2日（土）から3日（日）にかけ高知市の城西公園で開かれ、がん患者や家族、その支援者らがたすきをつなぎながら、交代で 24時間にわたって歩き続けました。

本学においても有機化学や電子・光システム工学などで、医療分野の研究・開発が行われており、学生たちが多数参加しました。参加者同士もすぐにうちとけ、「がんは24時間眠らない、がん患者は24時間がんと闘っている」というメッセージを共に歩くことで表明。学生たちも命を守る仕事への志を新たにしました。

残念ながら、3日の朝方から激しい雨により中止。完歩とはなりませんでしたが、県内外から35チーム、約2500名が参加。本学からも学生・教職員28名が参加し、「勇気ときずな」をテーマにたすきを繋ぎました。

若い力が時代の暗さを吹き飛ばす いざ！馳せ参じたり踊り子隊

昨年、全国的に大きなブームとなった坂本龍馬の誕生日であり命日である11月15日に、龍馬と中岡慎太郎の墓所がある霊山護国神社での「奉納踊り」として始まった「龍馬よさこい」。

昨年は11月13日から15日まで、京都霊山護国神社はじめ京都市各地で開催されました。3年前、志士たちの偉業を称える有志団体霊山社中主催の「龍馬祭」で、京阪の学生がよさこい踊りを披露。2年前からは学生たちが実行委員会を結成して運営しています。昨年は、「いっしょに踊らんかえ」の呼びかけに応じた43の学生チーム約1700人が京都に結集。本学チームも鳴子片手に京へ馳せ参じ、エネルギッシュに舞い踊りました。

京都霊山護国神社境内では、坂本龍馬と盟友中岡慎太郎の墓前に一礼して「奉納演舞」を舞うほか、京都市内の商店街など4会場が舞台となりました。次世代を担う若者たちが一心に演舞を繰り広げる姿は京都市民を圧倒。時代を動かす原動力となる若者のエネルギーが健在であることをアピールしました。龍馬も「おんしらぁ、やりゆうねぇ」と目を細めているにちがいありません。

高齢化・少子化乗り越え伝統を継承 「豊年踊り」をサポート

本学マネジメント学部の2年生10名が、いの町吾北地区（柳野）に伝わる『豊年踊り』を地域の方々と共に披露しました。晴れの舞台となったのは11月14日（日）に「グリーンパークほどの」（いの町）で行われた『第21回ほのほの王国もみじまつり』。およそ200人の観客を前に演じられたこの踊りは、壇ノ浦の戦いに敗れて落ち延びた安徳天皇を慰めるために始まったとされ、約800年の伝統を持ち、地元神社の秋祭りで奉納されていました。

しかし、過疎高齢化により一旦は途絶え、1997年に50年ぶりに復活したものの、存続の危機からは脱し切れていないのが現状です。

マネジメント学部が展開する「経営システム特別講義」（企業経営者や起業経験を有する方等を講師に迎え、生きたマネジメントの話を聞くことが目的）の講師を務める國友昭香氏（國友商事株式会社代表取締役社長）がこの事態を憂い、坂本安祥准教授にサポート依頼があったことから、この取り組みが始まりました。

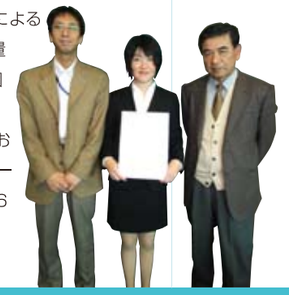
坂本准教授と学生らは、10月下旬から現地の方々と踊りの練習を重ねるとともに、2008年に20年ぶりの復活を果たした神奈川県三浦市の「菊名のあめや踊り」（神奈川県指定無形文化財）を参考事例として視察。「あるモノやコトを構成する要素の活動を調整し、それによって全体を維持していくのがマネジメント。途絶えつつある伝統芸能を日本各地に散見する地域課題と捉え、その継承・保存を地域マネジメント研究テーマとするきっかけとしたい。地域活性の場は教育・研究の場である。」と坂本准教授は話しており、今後の展開にも期待が膨らみます。

Student's life report.

応用物理学会支部学術講演会 発表奨励賞を受賞!!

この度、本学大学院修士課程物質・環境システム工学コース２年山木桃子さん（堀井研究室「磁場配向法による YBa2Cu4O8の三軸磁場配向と磁気異方性の定量化」）が、第15回(2010年度)応用物理学会中国四国支部学術講演会発表奨励賞を受賞しました。

これは、昨年7月31日に開催された、同講演会において、価値のある一般講演論文を発表したとして、一般講演150件の中の自己申告した32名の中から6名が選ばれたものです。



KUT 活動報告
2010 Autumn-Winter

news 1

ー「協働の森」事業ー 矢筈山清掃登山に参加しました

11月3日祝、本学の学生・職員が高知県の提唱する「協働の森」事業の一環として、高知県と徳島県の県境にある矢筈山（1606m）登山道の整備を行いました。高知県林業振興・環境部・環境共生課の職員を含む19名で、物部森林組合の職員が前日に草刈り機で刈ったクマザサの除去・清掃を行い、矢筈山から小檜曽山に至る稜線のトレッキングルートをより快適にしました。

この事業は前年に続き2回目ですが、好天に恵まれ、行き交う登山者からは「稜線の散策が大変楽になった。ありがとう」との感謝の言葉をいただきました。

news 2

地域活性化シリーズ講演会開催 高齢者ドライバーの安全を考える

地域連携機構 地域活性化シリーズ講演会『高知の高齢者ドライバーの安全性を考える』を東京大学先進モビリティ研究センターとの共催により11月29日（月）に開催しました。

警察庁平成22年交通安全白書によると、高齢者を取り巻く交通情勢として、平成21年度中の交通事故死者数の年齢別の65歳以上の比率がほぼ半数（49.9%）と高く、10年前との比較では、全体の交通事故死者数の減少率は45.4%と高いにもかかわらず、75歳以上の減少率は6.6%に留まっています。とりわけ高齢者化が進む高知県において、高齢者ドライバーの安全性を確保することは、喫緊の課題です。

講演会では、熊谷靖孝教授（地域連携機構 地域ＩＴＳ社会研究室長）の司会により、高齢者ドライバーの安全性について、各専門家による事例や研究成果の報告等がなされ、約60名の参加者からは活発な質疑が行われました。

講師：刈谷 斉（高知県警察本部交通部参事官兼交通企画課長）
岡田 訓（高知県警察本部交通部運転免許センター／教習所指導係兼技能試験係兼運転適性相談係 技監兼係長）
中野 公彦（東京大学大学院情報学環 准教授）
朴 啓彰（高知検診クリニック脳ドックセンター長／高知工科大学地域連携機構客員教授）

news 3

環境保全を考えるゴミ拾い 物部川清掃に参加しました！

12月11日（土）、物部川橋下河川敷で一斉清掃が行われました。

10月に雨天により中止となった「物部川川祭り」で予定されていた行事が、代替実施されたものです。

多くの団体・有志が参加する中、本学学生・職員17名も参加しました。作業終了後は、集まったゴミの量をあてるクイズや炊き出しも行われ、楽しみながら環境保全について考えることができました。

news 4

県民の皆様へ届けたいメッセージ 「4大学県民講座」開催

高知大学、高知女子大学、高知工業高等専門学校、本学の4大学・高専の研究者がそれぞれの分野から講演を行う「4大学県民講座ー自分らしく生きるー」（高知學長会議 4大学県民講座実行委員会：主催）が12月12日（日）に高知女子大学 永国寺キャンパスで開催されました。

当日は、学生からご年配まで幅広い年齢層の方々が来場され、それぞれ興味のある講演に耳を傾けていました。

本学からは渡邊法美教授（マネジメント学部）が「私のだいじな場所を探してー工科大学での地域共生概論の試みー」と題して、本学のそばを流れる物部川の環境保全や地域共生について、流域の実務者によるお話やフィールドワークを通して感じ、理解する講義「地域共生概論」を開講するに至った経緯や、その取り組みの過程で出会った農・林・漁業関係者、自治体職員、ＮＰＯ法人そして学生等、様々な立場から物部川と向き合い「自分らしく生きる」方々を紹介しました。

今回で第3回となるこの講座は、今後も様々なテーマで実施する予定です。ご期待ください。

news 5

実践事例から学ぶ 「教師のためのエネルギー環境教育セミナー」

経済産業省資源エネルギー庁との共催で、『教師のためのエネルギー環境教育実践セミナーin高知』が12月11日（土）に開催されました。

実施主体である中国・四国地区エネルギー教育推進会議の代表を八田章光教授（システム工学群）が務めることから、本学を会場に地域教育支援活動の一環として開催されたものです。

教育現場におけるエネルギー環境教育の実践を支援することを目的に、実践事例に基づいた講演形式、実習形式のワークショップが行われ、約50名の教育関係者の皆様にご参加いただきました。

news 6

今後のさらなる交流に向けて 吉林大学と学生交流協定調印式

中国の吉林大学から張向東副学長をはじめとする訪問団が10月22日（金）に来学されました。

吉林大学計算機科学・技術学院およびソフトウェア学院と高知工科大学情報学群は、大学院生・研究者の交流、共同研究活動、情報共有について交流協定を締結しており、今回のご訪問は学生交流に関する覚書の締結および本学への表敬訪問の目的で実現したものです。

当日は張副学長と佐久間学長との会談で今後のさらなる交流が約束された後、同大計算機科学・技術学院 梁副院長およびソフトウェア学院 劉副院長と本学 岩田誠情報学群長により調印式が行われました。

また、これに先立ち前日の10月21日には、国際会議IWIT（※1）が開催され、両校の研究者、学生らによるプレゼンテーションやポスターセッションが行われました。

※1 International Workshop of Information Technology

news 7

木星オーロラの神秘に包まれて 大盛況！サイエンス☆カフェ

2007年2月に始まった、お茶を飲みながら科学者と語り合うアットホームなイベント「サイエンス☆カフェin高知」も今回で第10回目。これまで本学の教員を講師に展開してきましたが、今回初めて学外からの講師を迎え、『電波で探る木星オーロラの神秘』と題して12月18日（土）に高知市内で開催しました。

今回講師を務められたのは、木星電波研究に長年携わってこられた高知工業高等専門学校の今井一雅先生。太陽系最大の惑星「木星」では、地球よりもはるかに強力なオーロラが毎晩のように見られるとのこと。長年にわたる木星電波とオーロラの研究、そして惑星探査の成果によって解き明かされつつある発生機構などについて、やさしく解説していただきました。

各テーブルをまわりながら参加者の質問に答え、話題を提供する今井先生のサービス精神により、会場内は瞬く間に一体感に包まれました。「高知をサイエンスに満ち溢れた街にしたい！」というこのイベントの想いは着実にその裾野を拡げつつあります。

当日の参加は約40名。質問も次々に飛び出し、会場の熱気も冷めやらぬ中、最後はクイズ形式のおさらいでお開きに。名残を惜しむ参加者の姿が印象的でした。

news 8

本学の下水浄化システムも見学！ アフリカからJICA研修員が来学

11月30日（火）と12月1日（水）の2日間、アフリカ仏語圏8カ国の水資源に関わる省庁職員ら12人が来学され、水資源問題についての研修が実施されました。

2日間にわたる研修では、国際協力、水資源などを専門分野とする村上雅博教授（環境理工学群）より日本の水資源保全の国際支援事業、本学内の四万十川方式の下水浄化システムについて説明・見学が行われました。本浄化システムは、化学薬品等を使用せず、貝殻や砂、しいたけ栽培の廃材、プラスチック容器等を使用することで経済的で自然環境にも配慮しており、アフリカでの普及も見込めることから、研修員は村上教授に盛んに質問しながら、撮影するなどしていました。

また、本学の授業「国際協力フロンティア」に学生と共に参加。四万十川方式の水質浄化システムについて四万十市や本学での浄化現場、下水が中水へと循環されていく仕組みなどが映像等を用いて説明されると、皆さん熱心に聞き入っておられました。研修員からはアフリカの地図を用いた日本語による自国紹介も行われ、講義後の研修員と学生による意見交換では、水資源問題だけでなく、日本のまんが文化や互いの国の食文化などの話題でも盛り上がりました。

news 9

よりよい生活習慣を！ 「生活習慣病予防セミナー」開催

11月11日（木）、本学大学会館学生食堂において、高知県主催の生活習慣病予防セミナーを開催し、学生約50人が1日に必要な野菜摂取量や運動法について学びました。

このセミナーは、若い頃から望ましい生活習慣を身につけ、生活習慣病予防につなげることを目的として実施されたものです。

学生らは生活習慣病予防エクササイズや1日の野菜摂取量当てクイズなど、楽しみながら理解を深めた様子でした。

news 10

県内初「ＪＡＸＡタウンミーティング」が本学で開催されました！

日本の宇宙開発について考える市民参加イベント「第５２回宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）タウンミーティング」が昨年11月7日、本学で開かれました。同機構の本間正修理事は地球環境の監視システムについて、国中均教授はイオンエンジンの仕組みについて解説。本学システム工学群の高木方隆教授と山本真行准教授から事例報告が行われました。「はやぶさ帰還に日本人としての誇りを感じた」との声も多く参加者から寄せられました。

http://www.jaxa.jp/townmeeting/52/index_j.html

高知工科大学後援会からのお知らせ

後援会は、保護者の皆様からの会費をもちまして、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援する事業を行っております。会費を納入されていない方が若干おいでになりますので、会費の納入について御協力をよろしくお願いいたします。また会費は、学生活動（大学祭・クラブ活動・図書館書籍の整備など）や就職活動の支援、また卒業記念事業として卒業記念品(卒業アルバム)の作成など、有意義に使わせていただいております。
なお、平成21年度決算及び平成22年度予算は下記のとおりです。

<記念式典・祝賀会>

<よさこい祭り参加>

<協働の森(間伐作業)>

平成21年度決算（内は内訳額）

《一般会計》

（歳入の部）　（単位：円）

科目	予算	決算	増減	摘要
会費	26,266,000	25,454,000	812,000	50,000円×503名、38,000円×編入生8名
雑収入	150,000	113,590	36,410	預金利子等
過年度収入	2,150,000	633,000	1,517,000	未納者14名分(分割納入含む)
特別会計繰入金	10,000,000	10,000,000	0	卒業記念事業費等
繰越金	1,784,177	1,784,177	0	
合計	40,350,177	37,984,767	2,365,410	

（歳出の部）　（単位：円）

科目	予算	決算	増減	摘要
会議費	250,000	157,935	92,065	理事会等会議費(157,935)
事務費	410,000	241,460	168,540	印刷費(0)・郵送費(18,150)・手数料(23,310)・会費返還金(200,000)・その他(0)
課外活動助成金等	2,700,000	1,583,644	1,116,356	課外活動助成金(500,000)・課外活動特別助成金(1,063,644)・大学間交流事業費(0)・課外活動奨励補助(20,000)
施設・備品等整備費	1,500,000	957,571	542,429	行事用備品(557,970)・図書等整備支援費(399,601)・施設等整備費(0)
学園生活等支援事業費	2,570,000	1,124,025	1,445,975	学生サポート等支援費(220,200)・学生表彰等助成金(635,775)・地域交流事業助成金(268,050)
大学祭等助成金	5,350,000	5,326,400	23,600	新入生歓迎交流会等助成金(726,400)・大学祭実行委員会への助成金(2,300,000)・よさこい祭り参加経費助成金(2,300,000)
卒業記念事業費	10,000,000	9,229,875	770,125	卒業記念行事助成金(1,800,000)・卒業記念事業(198,000)・卒業記念品費(7,231,875)
就職先開拓費	800,000	211,740	588,260	就職活動等支援費(211,740)
特別会計繰出金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念行事経費・周年事業費等積立(15,000,000)
予備費	1,770,177	0	1,770,177	予備費(0)
合　計	40,350,177	33,832,650	6,517,527	33,832,650

一般会計繰越金　4,152,117

《特別会計》

（歳入の部）　（単位：円）

科目	予算	決算	増減	摘要
前年度繰越金	38,316,392	38,316,392	0	預金利息含む
雑収入	30,000	28,112	1,888	定期預金利息(高知銀行)
一般会計繰入金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念事業費
合計	53,346,392	53,344,504	1,888	

（歳出の部）　（単位：円）

科目	予算	決算	増減	摘要
10周年事業費	3,000,000	1,500,000	1,500,000	協働の森事業、応援歌作成
一般会計繰出金	2,000,000	1,207,034	792,966	記念祝賀会経費助成
	10,000,000	10,000,000	0	卒業記念事業費
次年度繰越金	38,346,392	40,612,470	△ 2,266,078	在学生の卒業記念事業費含む
合計	53,346,392	53,319,504	26,888	

特別会計繰越金　40,637,470
繰越総額　44,789,587

平成22年度予算（内は内訳額）

《一般会計》

（歳入の部）　（単位：円）

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
会費	25,382,000	25,454,000	△ 72,000	50,000円×497名、38,000円×編入生14名予定
雑収入	150,000	113,590	36,410	預金利子等
過年度収入	1,950,000	633,000	1,317,000	11～13期生未納者39名
特別会計繰入金	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000	卒業記念事業費等
繰越金	4,152,117	1,784,177	2,367,940	
合計	39,634,117	37,984,767	1,649,350	

（歳出の部）　（単位：円）

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
会議費	250,000	157,935	92,065	理事会等会議費(250,000)
事務費	415,000	241,460	173,540	印刷費(15,000)・郵送費(20,000)・手数料(30,000)・会費返還金(300,000)・その他(50,000)
課外活動助成金等	5,800,000	1,583,644	4,216,356	課外活動助成金(3,500,000)・課外活動特別助成金(1,800,000)・課外活動奨励補助(200,000)・大学間交流事業費(300,000)
施設・備品等整備費	1,500,000	957,571	542,429	行事用備品(800,000)・図書等整備支援費(400,000)・施設等整備費(300,000)
学園生活等支援事業費	2,420,000	1,124,025	1,295,975	学生サポート等支援費(200,000)・学生表彰等助成金(720,000)・地域交流事業助成金(1500,000)
大学祭等助成金	2,350,000	5,326,400	△ 2,976,400	新入生歓迎交流会等助成金(750,000)・大学祭実行委員会への助成金(800,000)・よさこい祭り参加経費助成金(800,000)
卒業記念事業費	9,300,000	9,229,875	70,125	卒業記念行事助成金(1,800,000)・卒業記念事業(200,000)・卒業記念品費(7,300,000)
就職先開拓費	1,000,000	211,740	788,260	就職活動等支援費(1,000,000)
特別会計繰出金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念行事経費・周年事業費等積立(15,000,000)
予　備　費	1,599,117	0	1,599,117	予備費(1,599,117)
合　計	39,634,117	33,832,650	5,801,467	39,634,117

《特別会計》

（歳入の部）　（単位：円）

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
前年度繰越金	40,637,470	38,316,392	2,321,078	預金利息含む
雑収入	30,000	28,112	1,888	定期預金利息(高知銀行)
一般会計繰入金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念事業費・周年事業費等
合計	55,667,470	53,344,504	2,322,966	

（歳出の部）　（単位：円）

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
10周年事業費	800,000	1,500,000	△ 700,000	協働の森事業
公立学校法人記念事業	―	1,207,034	△ 1,207,034	公立学校法人記念事業
一般会計繰出金	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000	卒業記念事業費
次年度繰越金	46,867,470	40,612,470	6,255,000	在学生の卒業記念事業費含む
合計	55,667,470	53,319,504	2,347,966	

※兄弟姉妹で在学中の方は、あとで入学された方の会費の半額を返還しております。兄弟姉妹で在学中の方は、学生支援部（0887-53-1118）へご連絡ください。

HOT NEWS 2011 KUT 情報局

学生への各種表彰、名誉教授称号が授与されました。

開学記念日である11月7日、平成22年度開学記念日行事が執り行われ、学生への各種表彰ならびに名誉教授称号が授与されました。

※敬称略

教育本部長表彰（3年次生）

人文社会科学等科目成績優秀者		自然科学等科目成績優秀者	
福田　雄輝	社会システム工学科	竹村　祥崇	マネジメント学科
上原　啓史	電子・光システム工学科	森　康行	物質・環境システム工学科
西込　郁弥	マネジメント学科	横濵　拓海	物質・環境システム工学科
坂本　里絵	マネジメント学科	藤田　夏斗	物質・環境システム工学科
小野　みどり	物質・環境システム工学科	右川　貴子	物質・環境システム工学科
西森　友康	電子・光システム工学科	仲上　将央	物質・環境システム工学科
岡林　宏明	マネジメント学科	西森　友康	電子・光システム工学科
和田　惇	物質・環境システム工学科	松本　和茂	物質・環境システム工学科
三好　雄大	電子・光システム工学科	新本　優	知能機械システム工学科
仲上　将央	物質・環境システム工学科	岩浅　僚	知能機械システム工学科

学長表彰（前年度成績優秀者）

	物質・環境 システム工学科	知能機械 システム工学科	電子・光 システム工学科	情報 システム工学科	社会 システム工学科
4年次生	西澤　和展 筒井　幸友 藤原　誠 横山　和哉 清遠　英志	戸田　直耕 渡辺　悠人 吉村　昂泰 市原　哲也 黒岩　敬生	常石　佳奈 小路　紘史 正岡　秀章 平松　秀太 大塚　雅之	小松　佐典 菅　優也 中野　友貴 傍士　竜百 彼末　和也	野口　貴子 片岡　慎 須田　将康 山本　真弓 池澤　勇太
3年次生	横濵　拓海 右川　貴子 下元　直也 松本　和茂 高橋　俊也	岩浅　僚 山内　大嗣 新本　優 小笠原　慧 福井　遼	西森　友康 西面　尚彰 中西　功太 松田　武志 西内　創亮	尾原　功剛 川村　高之 北山　菜穂 森田　茂彦 和田　倫弥	秋山　心平 児山　拓矢 福田　雄輝 芝床　仁志 宮崎　有矢
2年次生	システム工学群		環境理工学群	情報学群	マネジメント学部
	北野　晶也 森岡　俊樹 村上　遼 金井　啓太 赤畠　成信	江口　翔平 久松　由衣 越村　美里 中島　麻衣 淺田　啓介	重松　晃次 上野　公義 粟根　綾香 佐藤　優樹 有本　香奈	福地　早希 川上　嵩仁 田中　亜璃紗 渡部　裕貴 橋田　佳昌	田渕　元気 種田　啓太 谷口　弘明 深瀬　健弘 吹田　徳

学長褒賞

個人		団体
岡田　廉太郎	システム工学群1年	吹奏楽部　WINDBRASS
河渕　絢子	システム工学群1年	アカペラサークル
前田　早紀	マネジメント学部3年	
中屋　進	大学院修士課程フロンティア工学コース2年	

廣井勇賞（3年次生）

小野　みどり	物質・環境システム工学科
福井　遼	知能機械システム工学科
上原　啓史	電子・光システム工学科
北山　菜穂	情報システム工学科
中阿地　卓也	社会システム工学科
今村　和貴	フロンティア工学コース
此平　駿哉	マネジメント学科

名誉教授称号授与

矢野　政顕
木村　正廣
門馬　義雄

やまだくんのとさやまだエッセー

YAMADA no YAMADA essey

土佐山田の魅力をお伝えします!!

その3「繁藤駅」

二代目山田くん
山田 賢くん
工学部
情報システム工学科４年

高知県は非常に雨の多い地域ですが、中でも土佐山田町繁藤地区は全国トップクラスの降雨量です。同地区は、土佐山田町の北に位置し、土佐山田の市街地からは駅で言うと2駅、車では一度西に大きく回り込み南国市から国道32号線を使って行くことが出来ます。

1972年7月5日午前10時50分、繁藤駅で局地的豪雨により大きな崖崩れが起きました。「繁藤災害」と呼ばれるこの大崩落は、先の小崩壊に巻き込まれた消防団員一名を捜索するために集まった町職員と消防関係者を飲み込み、家屋と雨のため駅に停車していた高松行き4両編成の機関車を押し流しました。

当時国鉄四国の職員だった祖父は、繁藤駅からの連絡で現場に駆けつけた時の状況について、「まるで山がそのまま移動してきたかのようで、線路には木が立ち、4両編成だったはずの列車は客車が2両残されているだけで、機関車は対岸まで押し流されていた」と教えてくれました。

自衛隊や機動隊、消防関係者等延べ約2万人の手により、捜索・救助活動が1ヶ月間行われ、最終的に死者60名、負傷者8名の被害を出すに至ったそうです。また、被害に遭った機関車は、その場で車体と機関に解体され今も対岸の土の中に埋められているそうです。

39年たった現在、災害による爪痕はハッキリと見ることは出来ませんが、繁藤駅から東へ数百m行った所に繁藤災害哀悼広場があり、そこには慰霊塔と災害資料館があります。毎年7月5日には慰霊祭が行われ、災害の起きた11時前になるとサイレンを鳴らして犠牲者の冥福を祈っています。この繁藤災害は、過去の教訓として現在に活かされています。もしもの時に備えて、持ち出し品や防災マップなど準備を怠らないよう、常日頃から心がけていきたいものですね。

繁藤駅は、ＪＲ四国の中でもっとも標高の高い駅だそうだ。ホームは片面十島式の２面３線となっている。

60名の犠牲者を出した繁藤災害。
その慰霊碑は、駅から大杉方面へ
国道を10分ほどの場所にあります。

在学生、学資負担者、卒業生の皆さま

このたびの大規模な地震災害により被害を受けられた皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧と皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

震災の影響により今後の学生生活について不安や支障のある方は大学事務局までご相談ください。

また、本学では卒業生の皆さまの安否確認を継続して行っておりますので、情報のご提供をお願い申し上げます。

公立大学法人　高知工科大学
学長　佐久間　健人

ご連絡先：学生支援部
TEL：0887-53-1118　FAX：0887-57-2000
E-mail：student@ml.kochi-tech.ac.jp

発行/高知工科大学　〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185
TEL：0887-57-2222　FAX：0887-57-2000
E-mail：query@ml.kochi-tech.ac.jp　http://www.kochi-tech.ac.jp
発行日/2011年3月31日